

2010年3月期(2009年度)決算説明会における質疑応答

質疑応答

- :質問
:NECの回答

業績予想について

- 2月25日に中期経営計画を発表し、2012年度の目標を掲げましたが、この達成に向けて今年度をどう位置づけていますか。
 - 10年度は中期経営計画V2012の初年度であり、重要な年と認識しています。10年度は若干保守的に見ているところもあります。
- 09年度は3,209億円の固定費削減を行いましたが、10年度の固定費はどの程度になりそうですか。
 - 10年度は半導体事業を担っていた旧NECエレクトロニクスが連結対象から外れ、携帯電話端末事業でカシオ日立モバイルコミュニケーションズと統合するなどの動きがあります。10年度の売上高予想3兆3,000億円は、旧NECエレクトロニクス非連結化の影響を除くと、前年度比で5%程度の增收になります。携帯電話統合による売上への寄与も含まれています。
 - 固定費については、09年度に緊急措置として削減した人件費や売上増加の影響を受ける技術外注費などが増加すると予想しています。
- 為替変動の影響はどの程度ですか。
 - 09年度実績では、対ドル1円の円高で、年間6億円程度の損益へのインパクトがありました。10年度は、半導体事業が非連結化し、これ以外はプラスの影響とマイナスの影響がバランスするため、為替変動による影響はほとんどありません。
- 10年度の持分法による投資損益の予想には、ルネサスエレクトロニクスの業績を織り込んでいないとのことです。同社が構造改革などで特別損失を計上した場合、NECの当期純利益の予想値はどうなりますか。
 - 同社は現在、統合後100日間を目途に新しい方針を具体化する「100日プロジェクト」を実行中で、それが同社の第1四半期の決算発表時に公表される予定です。その段階で対応策を検討したいと考えています。

- 10年度のフリー・キャッシュ・フローが500億円の不足と予想している理由を教えてください。
 - 既に実施済のルネサスエレクトロニクスへの資金注入を含み、マイナス500億円と予想しています。09年度は、日本電気硝子の株式売却により700億円程度のプラス要因がありましたので、実績の936億円からこの影響を除いたものが実力値だったと考えています。今年度も引き続き、資産の効率化を進め、キャッシュ・フローをしっかり稼ぎたいと考えています。

10年度の取り組みについて

- 10年度のネットワークシステム事業は、大幅な增收を予想していますが、どのような戦略で達成していく考えですか。
 - 海外市場では、海底ケーブルは強い競争力を持った事業であり、確実に受注に結び付けていきたいと考えています。パソリンクは、アジアを中心として増やしていきたいと考えています。また、ブロードバンド対応の新機種を投入し、付加価値分を価格に結びつけ、利益の確保と売上の増大を考えています。
 - 国内市場では、W-CDMA(*1)への投資は一巡しましたが、今後はフェムトセル(*2)、LTE(*3)、WiMAX(*4)などの新しい領域の市場が拡大していきます。UQコミュニケーションズ向けのWiMAXでは、NECは既に大きなシェアを有していますし、LTEではNTTドコモ、KDDIの2社からベンダーとして選定されており、これらの新しい領域で当社は有利な位置にいると考えています。
- 今後、海外向けLTEが増える可能性はありますか。
 - スペインのテレフォニカ社やシンガポールのシングテル社とLTEのトライアルを行っています。地域別で一番期待しているのは、ヨーロッパです。ヨーロッパでは既にGSM(*5)やW-CDMAのネットワークが整備されているため、LTEの需要がないのでは、という議論もありますが、周波数効率を考えるとLTEを入れるべきであり、データサービスがどう展開していくかを注視しています。中南米に多くのグループ会社をもつテレフォニカ社とは良い関係にあり、同社向け事業を確実に進めて、実績を築いてきたいと考えています。

- 「外への努力」、「内なる努力」が必要とのことです。この1年で一番やりたいことは何ですか。
 - これまで二つの努力があまり上手く機能していなかったと認識しています。09年度のように市場環境が厳しい時は「内なる努力」ばかりで、そして市場環境が良くなると「内なる努力」を忘れてしまうという傾向がありました。これからは、常に両方を意識するよう、社員に訴えています。
 - 引き続き、市場環境が厳しい状況にはあります。09年度は前年に比べて3,209億円の固定費を削減することができました。これを継続しながら「外への努力」に注力していきたいと考えています。
 - 「外への努力」では、我々が持っている従来からの分野に加えて、マーケットの中で新しいエリアを築いていく必要があります。一つはグローバルであり、もう一つは新しい領域の開拓です。そのために我々も変わらなければなりません。社内では、特に売上の拡大やマーケティング活動について検討しています。

*1 W-CDMA: 第三世代携帯電話(3G)の方式の一つ。

*2 フェムトセル: 家庭に設置する超小型の無線基地局で、携帯電話の電波を屋内に引き込まれているプロードバンド回線を利用して送受信する。電波が届きにくい室内でも携帯電話が利用できるうえ、プロードバンドの帯域を一家庭で占有できることから、携帯電話向けの新たなデータサービスが見込まれている。

*3 LTE: Long Term Evolution、3.9G、もしくはスーパー3Gとも呼ばれる3G(第三世代移動通信システム)の高速化規格。100Mbpsの高速データ通信が可能になる。

*4 WiMAX: World Interoperability for Microwave Access、「WiMAX Forum」によって推進されているIEEE 802.16規格のニックネームで、無線通信技術の規格の一つ。無線LANが自宅やオフィスなど限られた場所で利用されるのに対し、WiMAXはより広いエリアに対応可能であり、外出先や移動中も高速インターネットを楽しむことができる。

*5 GSM: Global System for Mobile Communications、携帯電話の通信方式の一つ。

以上